

十勝縄文の始まり？ それとも... 大正3遺跡



発掘中の大正3遺跡。ここを流れていた川が、流れにそってつった「もり上がり(自然堤防：2)」の上にあった。今は自動車道の下。

発掘調査の時、土器のかけらが、ふつう縄文のものが
出る地層より下の地層から見つかりました。
調査をしていた山原学芸員(帯広百年記念館埋蔵文化財センター)は、これを見ると、
「この文様(もよう)は、新潟県の小瀬ヶ沢洞窟遺跡のもの
と似ている」と思ったそうです。小瀬ヶ沢の土器は、縄文時代の始まりころ(草創期)のものでした。

この土器のかけらには、ほかにも表面をつめや道具でさしたりつまんだりしてつけたもようがあるなど、縄文時代初めの持ちようを持った土器であることが確かめられました。



大正3遺跡で見つかった石器。左上がヤジリ(矢の先)。左下内はその後の縄文時代のヤジリ。



(上)自動車道完成後。

(右)大正3遺跡の位置。帯広市大正町東3線。

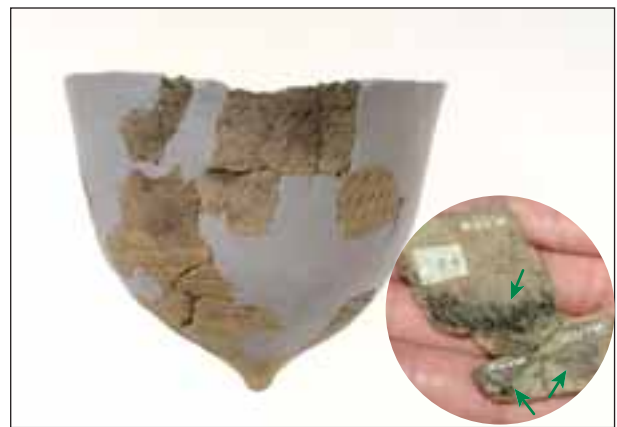


「土器」は、粘土を形にし火で焼いて作る器です。土器が現れることで、「縄文の文化」が始まります。

本州では、およそ1万3千年前の土器が見つかっていて、ここから「縄文時代」が始まるとされていますが、北海道ではずっとおくれで、9千年前ころから土器が使われだしたと考えられていました。

しかし、平成15年(2004)帯広・広尾自動車道の工事前に発掘調査された「大正3遺跡(帯広市大正町)」から、およそ1万2千年前の土器が見つかりました。

まさに、北海道の歴史を書きかえる、大発見だったのです。



復元された土器。円内は土器についていた「おこげ」(矢印)。

さらに、見つかった土器は料理に使われたようで、「おこげ」がついていました。おこげにある「炭素」を調べることで、いつの時代のものかわかります。

その結果、「おこげ」は1万2千年くらい前のものだったことがわかったのです。(p70)

こうして、大正3遺跡から見つかった土器は、北海道最古のもので、本州で縄文時代が始まってまもなくのものであると確かめられました。

ただ、これが十勝(そして北海道)の縄文時代の始まりだとすると、なぞも残ります。

このあと、約3千年の間、土器が見つかっていないこと。3千年後の縄文の土器や石器と、ちがいが大きいこと。ヤジリ(矢の先)の石器も見つかるが、本州のもの(▲)とちがって、◆形であること、など、わからないことが多いです。

一度、暖かくなった時に、土器を持った人たちが北海道にわたってきたのだけれど、およそ1万2千年前にあった「寒のもどり(寒さがもどった時期)」に、いなくなったのかも知れません。

(写真：帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵)

2. 自然堤防(しぜんていぼう)：自然のままの川にそってできるより少し高い土地。洪水が起きた時、あふれた川の水が土砂を堆積(たいせき：積み重ねること)していくことできる。 1 帯広百年記念館埋蔵文化財センター(おびひろひやくねんきねん

かんまいぞうぶんかざいセンター)：帯広市西23条南4丁目26 電話 0155-41-8731 日・月曜日休館

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん